

妻の昭子さんがいつも家を守ってくれた。「家に居ない」と笑いながらも昭子さんは宏一さんを誇りに思っている。



Proud!  
東日本大震災の復興を支援しよう  
Japan

Public relations  
OZU TOWN

広報 おおづ 2012 1

発行・編集 ■大津市・企画課  
〒869-1292 熊本市東区大津町大字大津 1233 番地  
TEL.096 (293) 3111 <http://www.town.ozu.kumamoto.jp/>

210 印刷 ■ホーテ印刷株式会社  
※広報おおづは環境に配慮して再生紙と大豆インクを使用しています。

UD FONT  
易やすく読みまちがえにくい  
コンピューターでデザインソフト  
を採用しています。

今年は今  
もっと良くなるよ

今月のみどころ  
新年のごあいさつ

特集  
最高のおもてなし ねんりんピックその後  
盛況の内に終了したねんりんピック  
その裏には、多くの人のおもてなしがあったー

クローズアップ大津人  
本田宏一さん

大津のことがもっと好きになる情報誌

広報  
おおづ

1  
JANUARY 2012

本田 宏一さん (大林)



いくつになっても、「まだまだ」と。目指す先は、まだまだ遠い。

杖道。「じょうどう」と読むこの杖道は、杖と木刀を使う。杖は、打つときは刀となり、突くときには槍となり、また払うときは薙刀となる。その杖を使った「全日本杖道大会」が昨年10月、大阪府で開催され、本田宏一さんが七段の部に出場した。学生の頃から武の道を歩んできた本田さんが求めるものは――。

昭和30年頃、東京の大学に進学した本田さんは合気道始める。最初は、柔道で有名な講道館の門をたたいたが、投げられ続けて腹が減って仕方がなかった。「それならばと、その腹も減らないうつ合気道を始めようと思ったんです」と当時を笑顔で振り返る。

大学卒業後、企業への就職を経て、高校の教諭になった。そして転勤の度に新たな武道を始めた。合気道から始まり、タイ捨流剣術、伯耆流居合、神道夢想流杖術まで、今でも週6回の稽古は欠かさない。

師に恵まれていると話す本田さん。ある時、師匠から気や丹田の話がされた。雲をつかむような話で、それを理解できたのは17年たった後だったという。師の言葉はずっと本田さんの中に生きていく。だから、17年後に気が付くようなことが起きる。師に恵まれているのは、前向きな姿勢があるからとそだ。

人間は年齢を重ねていくと自然体であることを忘れてしまう。「武道とは、自然体の自分になるように余分なものをそぎ落としていくことだと思えます」と本田さんは考える。

今年で76歳になる本田さん。答えを探して「まだまだ」と言い続ける限り、これから先も楽しい人生が待っているのだらう。

つづきの声

▼あけましておめでとうございます。今年が皆さんにとって本当に良い年でありますように――▼昨年はつらいことが多かった年でした。でも「きつ」と今年も「つ」と良い年になると信じています。そして、良い年が「ずつ」と続いていけば良いですね▼昨年の漢字が「絆」に決まりました。今を生きる人々にとって大切な心のつながり。いろいろな問題も本心に心をつなげることができれば、解決できるのではないかと思っています▼最近、「当事者意識」という言葉が頭から離れません。何かの問題に対して、正しいことは一つだけではありません。相手の立場に立って、相手の気持ちや想像しながら行動したい。それが心をつなげることになると思っています。(社口)